

地域ブロック：中国

ルート名称：人間文化の原風景 ～ご縁をつなぐ神仏の通ひ路～

活動名称：神話資源調査

## 1. 活動の概要

### (1) 活動内容

- ① 圏域内神話資源の抽出・整理
- ② 「オオクニヌシ」など共通のキーワードに基づく神話資源の整理
- ③ キーワード別の神話資源へのストーリー性の付与と周遊ルートの設定
- ④ 道の駅への風景街道ブース設置



弓ヶ浜



黄泉比良坂



神原神社



道の駅の風景街道ブース

## (2) 活動による成果・効果

平成22年3月末のレーク街道研究会において、レーク街道推進会議メンバー、自治体関係者、県内観光関連事業者等に、その成果を発表することとしている。

また、古事記編纂1300年を迎えるにあたって、島根県を中心に、古事記や出雲神話に着目した観光振興の動きが始まろうとしている。これらとの連携を図りながら、出雲神話をテーマとした日本風景街道の活動としての取り組みを展開すべく、島根県観光振興課・道路維持課への提案などを行っており、平成22年度以降の活動展開を目指している。

今回の調査結果により整理した周遊ルートの感想など、利用者の意見についてもその中で調査を行っていきたいと考えている。

あわせて、道の駅に設置した風景街道ブースを、風景街道全般の取り組みと合わせて神話資源調査結果のPRや、周遊ルートの出発点、神話関連映像の放映などに活用することで、調査結果の有効活用に役立てていきたい。

## (3) 活動のきっかけ、目的・目標

- ・ レーク街道推進会議としてのこれまでの取り組みは、風景や自然に着目したものと、それらの情報提供システムを構築することなどが主眼であり、本圏域特有の資源である出雲神話に着目した取り組みが少なかった。
- ・ 単なる神話資源の抽出・整理では、島根県立古代出雲歴史博物館や出雲学研究所などの調査結果や資料と肩を並べるものとはならない。あくまで日本風景街道の取り組みとして、風景街道登録ルートを基本としながら、風景と、その背景にある神話の物語をストーリー性・回遊性をもって楽しむことができるよう、調査した神話資源を整理することで、既存調査資料との差別化を図った。
- ・ これまで風景街道の取り組みはホームページや個別事業の実施とあわせて実施してきたが、恒常的に来訪者に向けて情報を提供する場がなかったため、道の駅に風景街道専用のブースを設置した。

## 2. 取り組み内容

### (1) 活動を行うに当たっての主な課題

- ・ 調査の成果としては既存資料との差別化を図ることができたが、レーク街道推進会議内での検討にとどまっており、より来訪者等に受け入れてもらいやすいものとするためにも、古代出雲歴史博物館の学芸員など、専門家からの視点を入れる必要がある。

### (2) 具体的取り組み内容

#### ① 圏域内神話資源の抽出・整理

出雲国風土記、古事記、日本書紀の中から、関連する91箇所の神話スポット及び神々、祭事、伝承、自然環境を抽出。

#### ② 「オオクニヌシ」など共通のキーワードに基づく神話資源の整理

「国引き神話」「八俣大蛇」「国譲り」などのキーワードによって、①で抽

出した資源を整理。

現地確認・写真撮影のうえ、個別神話スポットの個票を作成した。

### ③キーワード別の神話資源へのストーリー性の付与と周遊ルートの設定

レーク街道推進会議での検討によりキーワードは「スサノオ」「オオクニヌシ」「ヤツカミズオミヅヌ」の3つに絞り込んだ。（別紙参照）

### ④道の駅への風景街道ブース設置

宍道湖南側、国道9号沿線の「道の駅 湯の川」に、風景街道専用の情報発信用ブースを設置した。圏域地図や風景街道の紹介パンフレットなどを配置している。今後、神話資源調査結果及び新たな周遊ルート等について紹介した地図やパンフレットも設置する予定としている。

設置にあたっては、道の駅、国土交通省松江国道事務所、島根県道路維持課にご協力いただき、それぞれと個別の調整を行った。なお、設置に際しては占用許可を申請・受理いただいている。今後、圏域内の他の道の駅にも同様のブースを設置いただくべく、関係者との調整を進めていく予定である。

## ・活動の原資

神話資源調査については、国土交通省からの日本風景街道登録ルートを対象とした支援により実施している。

レーク街道推進会議の事業は、国土交通省からの支援、事務局である松江商工会議所からの支援により実施しているものと、国や県等の競争的財源を獲得することによって実施しているものがある。後者については、レーク街道推進会議の主要メンバーによるコア会議において企画書・申請書等の検討を行ったうえで採択を目指すというスタンスである。

## ・活動の推進体制

レーク街道推進会議内に「神話資源調査チーム」を設けて、資源の抽出や現地調査、資料作成などにあたった。

調査の経過はレーク街道コア会議において確認し、調査結果をレーク街道推進会議の全体会議において報告することとしている。

## 3. 取り組み上の反省点、活動の結果生じた課題、その対応方針等

- ・ 検討がレーク街道推進会議内にとどまっており、専門家や一般の方等、外部からの視点が必要と考えられる。
- ・ 一般の方にも周遊ルートを認識してもらうための仕掛け・仕組みづくりには高いハードルがあると考えられる。関連する神社・仏閣との調整や自治体との調整が必要となる。特に、ルートであることをあらわすためのサイン設置も検討しているが、そのためには所管する自治体との連携は不可欠である。圏域内自治体はレーク街道推進会議に参画いただいております、ここの調整を図る。
- ・ 先述のとおり、島根県を中心として古事記編纂1300年事業として平成22年から26年にかけて様々な観光振興の取り組みが行われる予定となっている。レー

ク街道推進会議から島根県へ働きかけ、県からも民間と一緒に取り組んでいきたいとの意向もいただいております、特に今回の調査結果と関連させながら、島根検討への提案や協働での取り組みを実践していきたい。

- ・ レーク街道推進会議の中でも、主に活動に携わるメンバーが限定されている。今後は、多くの参加メンバーが共有できる仕組みや体制づくりが大きな課題となっている。

#### 4. 問い合わせ先

所属団体：レーク街道推進会議

担当者名：事務局 岩見、高尾（松江商工会議所観光振興課）

電話番号：0852-32-0504

メールアドレス：iwami@matsue.jp

関連HP：<http://furusato.sanin.jp/kaidou/>

# 「スサノオ」に会う道

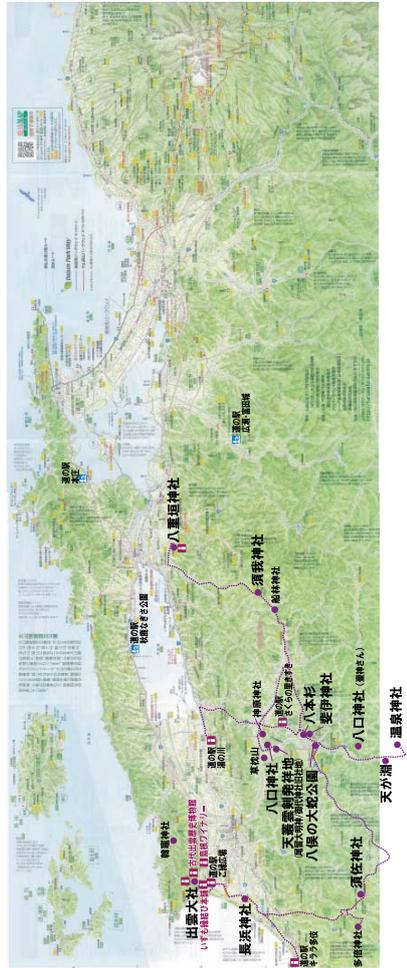
## ルートストーリー

スサノオに会う道は、その子孫オオクニヌシを祀る出雲大社から始まる。二礼四拍手一礼の出雲大社式拝礼で旅の安全を祈ってから出発しよう。まず南に進んで国引きの神ヤツカミスツツの御座長浜神社にも立ち寄って参拝。さらに南に須佐神社へと向かう。ここはスサノオが晩年を過ごし自ら御魂を納めた終焉の地である。荘厳な境内にスピリチュアル感が満ちて、今もスサノオを崇敬する参拝客が絶えない。ここから東にほぼ30分歩いていよいよスサノオが活躍した舞台斐伊川に入る。乱暴狼藉をとがめられて高天原（たかまがはら）を追われたスサノオは、斐伊川上流に降り立った。ある日、川のほとりで川上から流れしてきた箸を見つけた。今の木次町八俣の大蛇公園のあたりである。「人が住んでいる？」と川沿いに登って行くとスサノオは悲嘆にくれる老夫婦と娘に出会う。聞くところによるとこの川には、恐ろしいヤマノオロチが棲みついでおり、毎年老夫婦の娘を襲ってこれまでに七人を喰ってしまった。今年はまだ一人残るクシナダ姫が狙われているという。哀れに思ったスサノオは一計を案じて夫婦に大量の酒を造らせる。少し川上には群青に染まる大きな大きな淵がある。恐ろしいオロチが巨体を泳いで潜んでいた「天が淵」である。スサノオは川底からオロチを酒でおびき出し、泥酔したところをみごとに成敗した。そして、夫婦のすずめで助けたクシナダ姫を娶った。オロチに飲ませた酒を入れた壺の一つがこの奥の八口神社に「壺神さん」として祀られている。老夫婦はテナツチ、アシナツチといい、近くの温泉神社に祀られている。

さて、川をもとに下って木次町に戻るとスサノオが退治したオロチの頭を埋めたあとに植えられた八本杉が見える。その近くにはヤママトオロチが祀られる斐伊神社がある。日本では、たとえ悪神でも強大な力を持つものはすべて神として祀られたのだ。さらに北に進んで加茂町に入ると、赤川沿いに神原神社が現れる。この神社跡から出土した景初三年銘三角縁神鏡は卑弥呼が魏の国王から授かったものではないかと言われる。川沿いに少し下ると八口神社が見えてくる。スサノオが矢を放ってオロチを仕留めた場所ともいわれる。ここから南500mほどの傾斜地に尾留大明神旧社地がある。スサノオが死に絶えたオロチの尾をここで切り裂いたところ、中から一本の立派な剣が出てきた。この太刀こそ「勾玉」「鏡」と並ぶ三種の神器のひとつ天叢雲剣（あまのむらものつるぎ）、後にヤママトケルが蝦夷征伐に用いる太刀で現在の熱田神宮の神宝である。

国の民を長年苦しめたオロチを退治してすっきり出雲の英雄になったスサノオは、安住の地を須賀に求めてクシナダ姫と平穏な家庭を持つことになる。スサノオはこの喜びを「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠みに 八重垣つくる その八重垣を」と詠んで表した。ここが須我神社であり、日本初の和歌発祥地である。

スサノオに会う旅の終盤は松江で迎える。八重垣神社もスサノオ夫婦が住んだとされることである。オロチ退治の際に八重垣を作ったクシナダ姫を隠しておいた地という。神社の宝物殿には平安前期の作という彩色の板絵三面が残されており、スサノオ、クシナダ姫、テナツチ、アシナツチ、イチキシマヒメなど「古事記」に語られる神々がありありと表現されている。荒ぶる神としてヤマトを追われたスサノオは、出雲での活躍によって悲劇の神から神話のヒーローに変貌した。そして、この後いよいよ日本の国を造った偉大なシンボル神オオクニヌシがスサノオの子孫から現れるのである。



### 出雲大社



たかさんの神々によって、築かれた天下無双の大社と古より伝えられています。参拝方法は、二礼四拍手一礼です。神楽殿の大注連縄は日本一の大木で、連縄の始まりが左側にあります。本殿の背後に素戔嗚社があります。

### 長浜神社



国引きの神様が祀られています。土地鎮めの要石があり、その隣には、旅の安全をお守りする道祖神が祀られています。旅の安全を祈願しましょう。

### 須佐神社



スサノオ自らの御魂を鎮めおかれたところです。本殿裏の大杉は、周囲7mの巨木であり、樹齢は2000年を超えと言われています。向かいにはアマテラスの社があり、神社ゆかりの七不思議が伝えられるなど、ミステリアスなスポットです。

### 八俣の大蛇公園



スサノオが川の上流から流れしてきた箸を拾ったと伝えられています。上流に人が住んでいることを察して川上へ向かわれました。ここがオロチ退治伝説がスタートです。ないところもミステリアスです。

### 斐伊神社



ヤママトオロチを祀る神社です。古来より最も悪くも強大な力を持つものは畏敬の対象でした。武蔵国の一の宮の水川神社は、斐伊神社から分霊したと伝えられています。

### 温泉神社



ウシナダヒメの面頬、アシナツチ、テナツチの神像が安置されています。まっすぐに伸びる巨木で囲まれた境内はまさに神域。周囲は、点在する家屋と棚田の風景。日常とかけ離れた異空間を目のあたりにするでしょう。

### 八口神社 (壺神さん)



オロチ退治に使用した壺にお酒を入れた八口の壺の一つとして伝えられています。この壺に触れると天変地異が起るとの伝承もあります。

### 天が淵



オロチが住んでいたと伝えられています。天候の良い日も悪い日も毎日変わります。水の色は靑色です。東屋や遊歩道が整備され、いつでも、満近く覗いてみてください。

### 八本杉



スサノオがオロチを退治した後、その八つの頭を埋め、その上に八本の杉を植えたといわれています。斐伊川の氾濫で何度も流出しましたが、そのつと補植され、現在の杉は明治6年に植えられたものとされています。

### 神原神社



かつての本殿は古墳の上に建てられ、その古墳からは邪馬台国の女王卑弥呼が景初3年に魏王より授けた「三角縁神鏡」の100枚のうちの1枚とされるものが出土しています。

### 八口神社・草枕山



スサノオが矢を射て、オロチを仕留めたところと伝えられています。酒を飲んだオロチが苦しんで寝た山と言われる草枕山を境内から見ることが出来ます。近くは流れ赤川の水量を妨ぐため、草枕山を切り開いたため現在には裏つ二つになっています。

### 天叢雲剣発祥地



スサノオがオロチの尾を切り開き、天の叢雲剣を取り出したところと伝えられています。この剣は三種の神器の一つです。

### 多信神社



スサノオが退治した男の首が埋められていると伝えられています。

### 八重垣神社



ウシナダヒメが、日々、姿を隠されたと伝わる鏡の池では、現在、縁の運道を占う占いの池として多くの方々が訪れています。夫婦橋は、「橋」をシンボルや商品に使用している某化粧品会社が発展を祈願されたとか。

### 須我神社



オロチ退治を終えたスサノオが新居を建てると選んだ場所がこの須賀の地です。ここに来てスサノオは、なつたそうです。そして詠まれた和歌が「八雲立つ 出雲八重垣 妻籠みに 八重垣つくる その八重垣を」

### 船林神社



海潮の地にある船林山は、神様が曳いてきた船と伝えられています。参道を登ると船をひきのりした形のもの、参道の両脇は意匠配り、歩いてまよまよとその山舟形を美観します。この山間に海に関連する名称がみられるのもおもしろい。



